

Q & A

問題解決!



南部営農センター
園芸課
検校 哲也

Q1 いただいた花束を長持ちさせたいのですが、コツを教えてください。

A1 せっかくのブーケが、つぼみが開く前にグッタリ、といったことがありますよね。

花が咲ききる前に枯れてしまつたとほど、寂しく切ないことはありません。ふつと、切り花の寿命は、春秋なら一週間〜十日、夏なら四〜五日、冬なら十日以上もつはず。

でも、切り花をそんな長い間楽しんだことがない方もいるでしょう。花を長持ちさせるコツや技は数々ありますが、水揚げが一番も基本となる方法です。植物が弱つてしまう大半の原因は、水不足。水不足は、葉から水分が蒸発し、水分の供給が追いついていないことから生じています。通常の植物は、根から水分を吸い上げますが、切り花は、切り口から上部に向かって水を吸い上げます。切り口の状態が悪いと、花は水分を十分に吸い上げることができなくなり、蒸発だけが進み、水不足となつて弱つてしまつていきます。切り花がきちんと水分を吸い上げることができず、花首が下を向いたり、グッタリしてしまつた状態のことを、「水が下がつた」と言います。この状態を解消してあげましょう。

まず、水を吸い上げる入口である切り口をきれいにしてあげます。切り口をきちんと広げ整えてあげれば、水を十分に吸い上げることができ

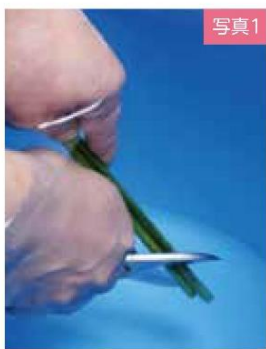


写真1

なぜ水中で切るかというと、切り口から空気の侵入を防ぐためです。植物の茎には、水を吸い上げるための道管というものが伸びています。

き、水分を葉や花に送り届けることができます。たとえ萎れかけても、再び生き生きと復活してきます。

切り花に水を再び吸わせてあげることを、一般に「水揚げ（水上げ）」と言います。つまり、水揚げ＝水の吸い上げを良くすることをきちんとすれば、花を長持ちさせられるのです。

花を長く保つための水揚げ方法は色々ありますが、基本となるのは「水切り」です。水切りとは、読んで字のごとく、花の最下部を水の中で切ることで、その要点は、①水中で切る、②スパッと切る、③斜めに切る、です。

切り口から空気が入ると道管内で気泡となり、水の移動が止まってしまうことがあるからです。せっかく水揚げのために切り口を整えても、気泡が入つてしまつては意味がありません。また、バケツの深いところで切ること水圧がかかり水揚げがスムーズに

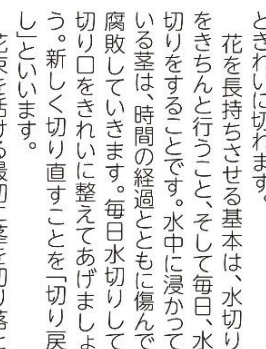


写真2

斜めに切れば、切り口の断面積が広がり、それだけ水の吸い込みがよくなり、直角に切るよりも、斜めに切つた方が道管を潰さずスパッときれいに切れます。

花を長持ちさせる基本は、水切りをきちんと行うこと、そして毎日、水切りをすることです。水中に浸かっている茎は、時間の経過とともに傷んで腐敗していき、毎日水切りして切り口をきれいに整えてあげましょう。新しく切り直すことを「切り戻し」といいます。

花束をかける最初に茎を切り落とす長さは、3〜5cm（先端にはバクテリアがいます。もし先端部がすでに傷んだり変色したりしているのなら、傷んでいる部分とさらに3〜5cmを切り落とす）。

その後は、毎日、先端部を1cmほど切り落とします。もし、傷みや腐敗が

生じていたのなら痛んでいる部分から1cmで切ります。

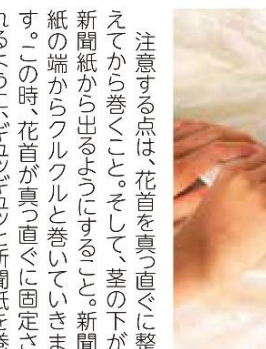


写真3

注意する点は、花首を真っ直ぐに整えてから巻くこと。そして、茎の下が新聞紙から出るようにすること。新聞紙の端からクルクルと巻いていきます。この時、花首が真っ直ぐに固定されるように、ギョウギユツと新聞紙を巻きつけるようにします。

巻きつけたら、半分以上水を張つたバケツに新聞紙で巻いた花を浸けま

す（写真4）。

浸けたら、水から出ている新聞紙に霧吹きをして湿り気を与えます。そのまま、半日から二日放置します。時間が

オンライン
農業塾は
こちら

動画はコチラ



管内の
病害虫
情報は
こちら



家庭菜園
情報は
こちら



写真4

経つたら、新聞紙を優しく外します。水揚げの話の前に、重要なことがあります。それは、花瓶の中の水を清潔に保つことです。バイ菌が繁殖すると水が腐り、茎の傷みが早まります。毎日、忘れずに新しい水に換えてあげましょう。花瓶もきれいに洗います。裏技を三つ。

漂白剤のハイターを水200mlに一二滴たらしめます。花瓶の水が殺菌されます。

きれいな十円玉を花瓶に入れておく、銅イオンが細菌の繁殖を抑えてくれます。

サイダーなどの甘い炭酸飲料を半分ほど混ぜても花が長持ちします。